

平成 28 年度

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0272300740		
法人名	有限会社メープルの里		
事業所名	グループホームメープルの里ときわ		
所在地	038-1214 青森県南津軽郡藤崎町大字常盤字三西田8-8		
自己評価作成日	平成28年9月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成28年10月6日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

日常の買い物やドライブの他に桜・ねふた祭り・紅葉・初詣等外出支援を多く取り入れ、季節を感じ楽しみを実現出来る様に心掛けている。地域との交流では近隣の保育園児とのさつま芋植え・収穫、町内会夏祭りへの参加、ホーム行事のバーベキュー・餅つきは町内会の行事として組み込んで頂いており、協力を得られる体制になっている。緊急連絡網に町内会の人も登録されており、入居者様が安心して生活できるよう協力を得られている。入居者様の要望・希望には出来る限り叶える事が出来る様に職員全体が入居者様本位を元に対応出来る様取り組んでいる。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】**

旧国道から入った道路沿いに立地し、近隣には地域を代表する病院があり、町立の小学校も存在し、落ち着いた環境の中である。1階はユニット①・2階はユニット②が配置され、共用空間の工夫もあり、入居者は明るく元気に生活し、職員の日常の努力のたまものと感じられる。2階のユニットの階段は、後付けではあるが、椅子階段昇降機が設置され、歩行が難しくなった時の対応の工夫をされている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念とは別に職員が考えた理念を作り共有している。理念に基づき自分らしい生活を安心して過ごして頂けるよう取り組んでいる。	企業理念とは別に、職員が作成した理念「①笑顔と出会いの大切さ②地域とのふれあいと繋がり③その人らしい生活と安心して暮らす」を掲げ、日々の取り組みに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の夏祭りや地域の行事等、積極的に出掛けている。又こちらの行事等を呼びかけ交流を図っている。	地域行事への参加の他、グループホームでのバーベキュー、餅つき大会、保育園と合同でのさつま芋堀等、町会長が参加しての交流が行われている。	
3		事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報を発行しており、色々な場所(他グループホーム、スーパー、他)に配布し、認知症に関する症状・対応等を知って頂けるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議において御家族様・役場・民生委員・包括の参加の元、色々な出来事の報告・意見等を聞き向上に活かせるようにしている。	運営推進会議は奇数月に定例で開催され、グループホームにおける「日常の状態・出来事」・「行事の報告」等を中心に話し合い、意見を求めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何事にも電話にて相談している。また運営推進会議にも参加されており、助言を頂く等の協力を得られている。	市役所には電話相談が主であり、生活保護の担当者や成年後見人が訪問し、助言等を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠なく、玄関にはセンサーと行動に介助要する入居者様の居室にはセンサー、呼鈴で対応している。拘束に繋がる対応がないよう取り組んでいる。	拘束に間するマニュアルが有り、職員は随時マニュアルを確認して、認識を深めている。必要に応じてセンサーマットも使用し行動を制限する事の無いよう取り組んでいる。また、外出の願望にも適宜対応し、玄関の施錠も夜間のみとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で虐待について学び、再確認にて虐待につながる事がないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内での勉強会や外部研修への参加にて、知識を深め必要になった時には活用できる様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	自宅や病院からの入居で環境が変わることでの不安や疑問に感じられていることについて、ご家族様が理解頂けるよう分かりやすい言葉で説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご家族様からの意見・要望について伺い、話を聞けるよう努めている。	入居料支払い時の面会を利用し、家族からの意見等の聞き取りに努め、生活や受診等に対する要望等を受けている。内容については、記録・申し送りをして対応している。問題が発生した場合においても早めに連絡し対応を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っている会議の時に職員からの意見・提案について話し合いを持ち、決まったことは実践している。	月一回2時間の職員会議があり、前半は研修、後半は要望の確認をしており、2ユニット同時に行っている。管理者は上部の会議に出席し、要望を伝え「トイレの手摺り設置」、「台所の床の張替え」等に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休暇は4週8休の確保と研修も勤務で参加しており、知識を深める機会を通して向上心を持ち続けれるようにと努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修希望者には、快く受けるように進めている。又、一人一度は研修へ参加できる様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に一度、町内のグループホームが集まり会議を行っている。今年度は各事業所の運営推進会議見学を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前に本人又は家族が困っていること、不安・要望を伺い安心して生活できる様、話し合いを持っている。又、職員が把握できる様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にホームを見学して頂き、御家族様が困っていること・不安なこと・要望等を受け止め関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・御家族様の要望をもとに本人様にとって最適なサービスは何かをお話し、他の事業所にも様々なサービスがあることをお伝えしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々のできる事を把握し、一緒に作業を行いながら教えて頂けるように会話を持つように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしや出来事を毎月のお手紙にて、御家族様へお伝えし気になっていることや困っている事など共に考え支えていくよう努めている。本人の誕生日にはご家族様へ誕生日カードを送りメッセージを書いていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地区の祭りや、行事に参加し、馴染みの人や知り合いの方と会い、懐かしむ機会を持つ様に取り組んでいる。	グループホームへの訪問は、家族が中心となっている為、グループホームとしては外部の行事に参加する取り組みや、理容・美容院等へ外出を支援する事で、馴染みの関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その方が何を思っているのか理解し、他者様同士トラブルにならないよう間に入り見守りしつつ、会話に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による退居者家族より、その後も状態の報告を頂けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の希望等があれば傾聴し、その人らしい生活が出来る様に支援している。	本人、家族の希望は会話を主体に把握し、入居者本人の生活の意向把握に取り組んでいる。	思いや意向の把握には、「入居前フェイスシート」の他、入居時1週間分の「24時間生活変化シート」、センター方式の「思いのアセスメント欄」等の統一したフォームの活用を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やケアマネージャーから情報提供を提供して頂き、また入居者様と会話をしながら情報収集するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌で1日の流れを職員で申し送りをして把握出来る様にしている。作業などで有する力を発揮出来るように働きかけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の視点に立って、その人らしく生活が続けられるよう状態変化等について情報収集し、カンファレンス時に話し合いを持っている。	介護計画の見直しの基本が、最長一年となっているが、その間にも、本人の状態変化について情報収集し、カンファレンス時に話し合いを行っている。	都度QOL(生活の質)の変化に対するモニタリングは行っているが、更新・状態変化等の明確な頻度を設定することで、定期的な再アセスメントの実施に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の流れがわかるように日誌に記載し、職員全員がわかるように情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別での外出等希望に応じられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの施設のお祭りや、町内のお祭り等に出掛け、楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の他にも本人、家族からの希望によりなじみの医療機関を利用している。	グループホームでの協力病院はあるが(内科・外科)、入居時に本人や家族の意向と、医療に係る方針を確かめ、希望に添った対応をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はいない為、通院時に気づいたことを伝え、支持を受けている。状態の変化がある時は、随時受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、情報提供を行い医療機関と情報共有している。入院中、スタッフ、管理者が訪問し退院を含め、今後の方向性について話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様にとって一番良い方法や環境について、ご家族様とチームで話し合っている。主治医と連携を取り相談している。	看取りに関する書面での確認はしておらず、グループホームでの看取りの事例はないが、終末期の利用者に対し、家族の意向も含め最善の取り組みで対応し、主治医と相談する事としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を通じて、速やかに対応出来るように再確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い職員の緊急連絡網にそって連絡行っている。また災害時に備えて3日分の非常食を備蓄している。	消防署による年2回の防災訓練は実施されている。緊急連絡網にはグループホーム関係者の他、近隣住民3名の氏名も記載され協力体制を確立している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導時一人ひとり配慮した声掛けを行い対応している。	一人ひとりのプライバシーに配慮し、和やかで、入居者に好意的な対応を行い、会議等での確認に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どうしたいのか伺い、または会話の中から気持ちをさっするように努め、本人が思っていることを出来る様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時に出来る限り対応出来るように努めている。どうしても直ぐに出来ない場合は、事情を話し、これこれがすんでからで良いか・その日にどうしても対応できない時には日にちを別日にして頂き希望にそえるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的(2ヶ月に一度)に床屋さんにホームに来て頂き、散髪が出来るようにしている。また本人様より訴え時はすぐ対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の食べたいと希望されている物は、朝食時に提供している。個々の出来ることからお手伝いの声掛けをさせて頂き、後片付け(食器・お盆拭き)を自席にて行えるようにしている。	現在の体制は法人センターで一括調理し、各事業所では盛り付けを行っている。昼食は入居者が配膳を行い、食事も会話をしながら楽しい雰囲気で作られている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の少ないときには、医師に相談しエンスユアを処方して頂く。またゆっくり食事の時間をかけて食べられる方への見守りをしている。水分チェック表にて1日1リットルを目安に摂れる様に促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後お茶か水を飲用して頂く。また食後歯磨きやうがいをすることで、口腔内の残差物が残らないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を元に個々の排泄間隔を見て、トイレの声掛け誘導を行っている。トイレで排泄出来る様に努めている。	排泄一覧表を活用し、一人ひとりのプライバシーに配慮した対応を行い、排泄状態が好転した入居者がいる。また、居室にポータブルトイレを準備しており、オムツ外しができた方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医との相談にて薬の調整や水分促したり、牛乳・ヨーグルト等を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週3回の入浴日を設け、出来るだけ本人の希望時間に入浴できるように対応している。入浴に拒否見られた時には、時間をずらしたり声掛けを代わってもらい対応している。	現在週3回入浴されており、1階が水・金・日、2階が火・木・土と設定され、入浴時間は終日確保されており、本人の意向に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具類の交換を行い気持ちよく眠れるよう心がけたり、状態に応じてパジャマの更衣・照明調節し心落ち着ける環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用薬の種類・効用はお薬説明書にて知り得るようにしている。変更時は申し送りにて全職員が把握出来るようにしている。状態の経過・変化等日常の様子を主治医に伝え、指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来る事を把握しお願いすることで、日々の張りや喜びに繋がる様に支援している。ドライブ・町の行事や催し物等にも積極的に参加し気分転換に繋がるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時には出掛けられるように努めている。日常的にドライブ・外出等をして気分転換につながるよう支援している。また一人ひとり行きたい所に行けるようにと今年も入居者様と職員が一对一でお出掛け行っています。	月例予定表は作成せず、行事による外出以外は本人の希望時に合わせて、外出支援に取り組んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族様よりお預かり金として保管し、受診や買い物は職員代行し支払いや購入している。本人様の希望時は、御家族様と相談してから本人様に渡している。管理できない方は、買物等支払い出来る様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望時は連絡できる様に支援している。手紙を出したい時は職員が代行して投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには毎月季節を感じれるよう壁画や飾り付けをしている。居室には本人様の様々な写真を飾っている。温度・湿度に気を配り、調整している。加湿器を使用し、居心地よく過ごせる様に工夫している。	建物には木の温もりが感じられ、入居者は闊達にふるまっており、明るく居心地のよい共用空間となっている。エアコンはホールに設置されているが、各居室は本人の希望で扇風機等置いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き、好きな時にいつでも利用できる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンスやテレビ等、好みのものを使用して頂いている。また位牌を持って来られる方もおられる。ベッドはご本人様に合わせ高さ調整し居心地よく過ごせるように工夫している。	ベットはグループホームの備付けだが、その他の必要物品については入居者の持ち込みとなっており、馴染みの品物や、写真を飾るなど居心地の良さが感じられる。また、居室を自ら掃除している入居者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自室がわかるように見やすく表示している。手すりも設置されているので安全に生活できる様支援している。		